

次号予告

特集 ヒューマンエラーからのリカバリ

- 左折事故とその対策の20年の検証……………吉田信彌 (東北学院大学)
オートマチック車の運転エラーとシステムデザイン—認知工学の視点から—
……………仁平義明 (東北大学)
医療事故とリスクマネジメント……………押田茂實 (日本大学)
航空機事故とヒューマンファクター……………神田直弥, 石田敏郎 (早稲田大学)
災害時の住民避難におけるヒューマンファクター……………首藤由紀 (社会安全研究所)
原子力発電: ヒューマンエラー対処への新しい視点……………北村正晴 (東北大学)

編集後記

●私事で恐縮ですが、仙台に移ってはや2年余りが経過しました。編集委員会では、各支部にOR誌の特集を担当してもらう月があっても良いのでは、という議論も出ています。東北支部ではやや荷が重い感もしますが、他の支部ではいかがでしょうか。

●話は変わりますが、仙台に来て初めて聞いた言い回しでとても気になるものがあります。最初に気付いたのは、買い物中に「お支払は現金でよろしかったですか」と聞かれたときです。普通なら「…よろしいでしょうか」と聞かれるはずなのに、そのときは、過去形を含んだ質問に少し驚いた程度だったのですが、その後レストランに入る早々「お客様は2名でございましたか」とか、最初の注文なのに「ライスとパンはどちらがよろしかったですか」と聞かれるなどして、どうして「…ございますか」「…よろしいでしょうか」

と言わないのか気になって仕方ありません。あるデパートで新作を紹介しながら「こちらに今年の新作もございましたが」と言われ、「では今はもう新作はないのですか」と少し意地悪に聞き直して、困惑されたほどです。

●どうしてこんな言い回しをするのか地元の人にいろいろ聞いてみると、これは丁寧な表現で、北海道等でも使われているとのこと。そう言えば英語でも“I would like to…”とか“Could you please…”と言って、過去形を使って婉曲で丁寧な表現をするではありませんか。なるほど。

●この言い回しと英語との不思議な共通点に感心しつつも、まだ気掛かりな点の一つ。仙台では女性に向かって「スタイルがよろしかったですね。」と言っても皮肉にはならないのでしょうか。(山下英明)

オペレーションズ・リサーチ 編集委員会

委員長 田口 東(中央大学)

委員 大屋隆生(財電力中央研究所), 北澤英理子(東京ガス(株)), 栗田 治(慶応義塾大学), 繁野麻衣子(筑波大学), 清水康司(青山学院大学), 田村明久(京都大学), 中川慶一郎(株NTTデータ), 難波和明(東京理科大学), 原 裕淳(株東芝), 平山克己(住友金属システム開発(株)), 松村良平(東京工業大学), 宮崎 知明(富士通(株)), 山下英明(東北大学), 吉野秀明(日本電信電話(株))

本誌に掲載された記事についての著作権は、社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会に帰属する。

オペレーションズ・リサーチ

平成12年10月号 第45巻 第10号 通巻478号

代表者 長谷川利治

発行所 社団法人 日本オペレーションズ・リサーチ学会

東京都文京区弥生2-4-16 学会センタービル

電話 03-3815-3351(代) FAX 03-3815-3352 〒113-0032

編集人 田口 東

発売所 株式会社 日科技連出版社

東京都渋谷区千駄ヶ谷5-4-2 〒151-0051

●本誌のご注文は直接

日本オペレーションズ・リサーチ学会へ 定価970円(本体924円)年間予約購読料11,040円(税含)

●本誌への広告お申し込みは明報社(3546-1337), 日経弘報社(3563-2241)へ